

平成18年度豊かな体験活動推進事業（「豊かな体験活動の実施」）

豊かな体験活動推進地域・推進校 実践報告

推進地域：藤崎町

【推進校】

藤崎町立藤崎小学校

藤崎町立常盤小学校

藤崎町立明德中学校

藤崎町立藤崎中央小学校

藤崎町立藤崎中学校

青森県立藤崎園芸高等学校

藤崎町

藤崎町豊かな体験活動推進地域実行委員会

- ・ 藤崎町立藤崎小学校
- ・ 藤崎町立藤崎中央小学校
- ・ 藤崎町立常盤小学校
- ・ 藤崎町立藤崎中学校
- ・ 藤崎町立明德中学校
- ・ 青森県立藤崎園芸高等学校（事務局校）

実行委員会会長 月 足 正 尚

地域の特性・状況

藤崎町は、旧藤崎町と旧常盤村が平成17年3月28日に合併して誕生した町です。水と緑の豊かな自然に囲まれた地勢と津軽文化発祥の地としての由緒ある歴史や伝統を活かしながら、それぞれの町村が取り組んできたまちづくりの成果を引き継ぎ、今後さらに発展・飛躍するために手を取り合って仲良く新しいまちづくりをしています。町では「みんなで創る 心豊かな 優しいまち」を合い言葉に、子どもたちに未来を託せる育てやすいまち、都市と地方を結ぶ交流拠点、水と緑の田園文化が薫る暮らしやすいまちを目指しています。

りんごの主力品種である「ふじ」の発祥の地でもある藤崎町は、農業の町であり「つがるロマン（有機低農薬米）」・「ときわの赤いたまご」・「完熟トマト」・「ときわニンニク」など、安全安心な農産物作りを目指しています。

また、町には安東氏や唐糸御前の伝説、常盤八幡宮年縄奉納行事をはじめ、城跡や歴史資源など大切に保全され、更に自然を生かした河川・公園等のレジャー施設のほか、伝統的な祭り、芸術・文化・スポーツ資源、豊かな農産物等の観光資源が数多くあり、毎年多くの観光客が訪れています。

そこで私たちは、この歴史的にも地理的にも恵まれた藤崎町を舞台に、児童・生徒が「豊かな体験を通して」健やかに成長していくことを目指し、この活動に取り組むことにしました。

「推進地域」としてのねらいや内容の重要点

（1）地域の特色を生かした体験学習の推進

地域の産業及び伝統文化を学びながら、地域産業体験、勤労奉仕体験、職場体験などを通して、郷土を理解するとともに「心豊かな人間」「生き方を考える力」を育てる。

（2）地域の教育力を活用した交流体験学習の推進

各校の実態に応じ、学校間相互の交流や連携及び地域の教育力を活用した取組みにより、開かれた学校づくりを進めるとともに、活動の場を共有することによる喜びを感じ取る体験を進める。

平成18年度豊かな体験活動推進事業（推進地域：藤崎町）

【 小学校：自然・勤労生産・交流に関わる体験活動 】

りんご・自然体験活動

藤崎町立藤崎小学校

1 活動の概要

活動のねらい

りんごづくりの作業を知り、作業を体験したりすることにより、りんごに関心を持つ。

りんごづくりに取り組んでいる人と、ふれあうことにより郷土に誇りを持つ。

野外活動等の体験活動を通して、自然に親しみ、協力・奉仕・集団行動の仕方を高める。

活動対象学年：5学年・48人

2 年間の活動の展開

体験活動の種類・内容	期間・日数 単位時間数	教育課程上の 位置づけ	活動場所	児童生徒の活動の状況
りんごづくり 体験	4～11月 24時間	総合的な学習 の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・学校 ・青森県立藤崎園芸高等学校果樹園 ・青森りんご加工工場 ・青森県りんご試験場 	<p>りんごに関して知っていること・やったことのある作業・疑問点等を話し合い、各自の課題を設定した。</p> <p>作業の必要性やポイントや注意点等を学習してから、りんごの花・マメコバチの観察、摘果・摘葉・収穫・ジュース加工・りんごを使った調理の体験・選果見学などの体験をした。そのため各自がよくできたという喜びを持って体験できた。</p>
海浜学習	7月 3日間 (15時間)	学校行事	青森県立種差少年自然の家	<p>ウォークラリー、ナイトハイク、いかだ作り・遊び、キャンドルファイヤー、せんべい焼き等の野外・屋内の活動を通して、自然に親しんだ</p> <p>集団行動の仕方を身につけ、協力・奉仕等の精神を高めた。</p>

3 学校支援委員会の体制

学校の体制がよく機能していたため、各関係団体等とも連携が図られ、総合的な学習の

年間指導計画に基づき、ほぼ計画通りに実施できた。

地域高校や工場等と連携をとり実施した結果、子どもたちがいきいきと活動できた。

4 活動の評価の工夫と指導の改善

- ・ 子どもの観察・活動態度（話の聞き方・メモのとり方・作業の丁寧さ・質問事項・協力性等）の観察，自己の課題設定，感想，振り返り等から，意欲・考え方・探究心等を評価した。
- ・ 子どもたちの感想は，校内に展示した活動のまとめに順次掲示し，互いにふれあうようにし，よいところを各自でも取り入れるような環境作りをした。
- ・ 評価した後，よいところは，子どもたち全体にその都度伝え広めていくようにし，意欲の持続につなげた。

5 活動の成果と課題

- ・ りんごの一連の作業のわけを知り，その後作業をすることによって，予想以上に子どもたちは，新しい発見をし，りんごへの興味・関心を増していった。そして，楽しみながらいきいきと満足感を持って活動できた。
- ・ 意欲の高まりは，目を見て話を聞く・メモのとり方（量・速さ・工夫）・質問等にも現れていた。
- ・ あいさつが元気よくできたり，お礼をしげんに言えたりと，人との関わり方もよくなった。
- ・ 家で以前より進んでりんごの作業をするようになったり，以前よりりんごを食べるようになるなど，家庭においても子どもの意識の変容が見られた。
- ・ りんごを大切に思う気持ちが育まれ，作業を丁寧にするようになった。
- ・ 藤崎園芸高校・リンゴ加工工場・県りんご試験場・種差少年自然の家との連携のお蔭で，子どもたちの感謝・礼儀・協力・奉仕・自主性等の気持ちが高まった。



平成18年度豊かな体験活動推進事業（推進地域：藤崎町）

【小学校：勤労生産（りんご・ふるさと）に関わる体験活動】

ふるさとをみつめよう

藤崎町立藤崎中央小学校

1 活動の概要


活動のねらい

自分たちの住んでいる藤崎町をりんご作りや施設見学，取材活動，ボランティアティーチャーの授業など地域の人々と触れ合う体験を通じた学習をすることで，ふるさとを大切に思う気持ちを育てる。

藤崎町に関する課題を自分たちで設定し，追究し，表現することで課題解決力や表現力を育てる。

活動の対象学年：3学年・43名

2 年間の活動の展開

体験活動の種類・内容	期日・日数 単位時間数	教育活動上の 位置付け	活動場所	児童生徒の活動の状況
勤労生産に関わる体験 <りんご作り体験>	計20時間 5～10月 8時間	総合的な 学習の時間 	りんご畑	・人工授粉，袋かけ，シール貼り，収穫などりんご作りのポイントを体験することにより，町の地場産業であるりんご作りを知ることができた。また，シールを貼った「自分のりんご」を作ることにより一層りんごに対し愛着をもつことができた。
<りんごを使った体験> ・りんごいろいろ体験	6～1月 4時間		板柳ふるさとセンター	・りんご資料館やりんご園でりんごの学習を行った後，りんごパイ・りんごの灰を使った焼き物の2つのコースに分かれ体験を行った。
・りんご料理教室	4時間		藤崎中央小	・自分たちで作ったりんごで皮むき大会をしたり，りんごを使ったお菓子を作ったりした。
・りんごクラフト教室	4時間		藤崎中央小	・りんごの枝にペインティングをし，キーホルダーを作った。
その他の体験活動 <ふるさとをみつめよう> ・町内めぐり	5～12月 計18時間 8時間	総合的な 学習の時間	町内各地 町内各地	・三日間に分け町内の公共施設や農産物の畑などを見学し，専門の方に説明していただいた。そこからさらに詳しく知りたいことや疑問に思ったことなどを話し合って次の活動につなげた。 ・調べたい場所を決め，子供たちが中心となってインタビューなどの取材活動を行い

・取材活動	8 時間		藤崎中央 小	調べてきたことを新聞や本などにまとめた。 ・調べてまとめたことを保護者やボランティアティーチャーに発表した。
・チャレンジ 発表会	2 時間			

3 学校支援委員会の体制

校内推進委員会・学校支援委員会の設置

本校では校長を委員長とする推進委員会を設置した。3年生の学担と加配が中心となって活動内容・活動時期・仕事の分担・費用などの具体的な計画を立て、りんご作りに関する外部との調整を教頭が行った。また PTA の役員やりんご作りの指導者、JA 藤崎支所やりんご料理のボランティアティーチャーなどで支援委員会を作りその都度協力していただいた。

配慮事項

地域の方々の協力を得ながら進めるため、時間調整や天候による予定変更など、きめ細かな連絡調整をするよう心がけた。またたくさんの施設機関を利用するため、前年度までの資料をもとにネットワークを作り、見学時期や見学内容など効率よく計画・実施ができるよう配慮した。

4 活動の評価の工夫と指導の改善

活動の評価の工夫

いろいろな人からの評価 ...中間報告会では 6 年生に聞いてもらい発表内容や発表方法について評価カードに書いてもらった。また、お互いの発表を聞き合いアドバイスカードの交換をした。また参観日に発表会を開きよかった点や改善点、感想などを記入してもらった。

自己評価 ...活動の節目に自己評価カードに記入しこれまでの活動を振り返った。また発表会終了後、ポートフォリオファイルを整理しながら今年度の活動を振り返る時間をとり、感想というかたちでまとめた。

担当者による評価 ...本校の総合的な学習の評価規準に沿って、総合的な学習での様子や成果を通信箋に所見のかたちで記入した。

指導改善の工夫

- ・いろいろな人から評価やアドバイスをもらうことが自分の学習を客観的にみつめることにつながり励みにもなった。また活動の節目に自己評価を行うことが一人一人の学習の立て直しの機会となった。
- ・総合的な学習のパターンは 6 年間を通じて同じなので今年度の学習の振り返りをしっかりとすることで次年度の改善への見通しをもつことができた。
- ・学年のテーマが固定されているので今年度の指導の反省を来年度の 3 年生の指導に役立てることができる。

5 活動の成果と課題

- ・町内のたくさんの施設やお店を見学したことでたくさんの人に会うことができた。自分たちのくらしをよりよくするためにいろいろな工夫をし、思いをもって仕事をしたり生活したりしている姿にふれることができた。
- ・見学の仕方、インタビューの仕方、情報の集め方・まとめ方、発表の仕方など、これからの学習や生活に使える技能を練習したり身につけたりすることができた。
- ・来年度も今年度の活動を基盤として年度のはやいうちに計画を立て、子供達の実態に合わせ改善を加えていきたい。また指導者がアンテナを広げ、どのような体験活動が可能なのか情報を集め選択肢を増やすことがより主体的な子供の活動につながると思う。

平成18年度豊かな体験活動推進事業（推進地域：藤崎町）

【小学校：自然、福祉に関わる体験活動】

地域に根ざす体験活動

藤崎町立常盤小学校

1 活動の概要

活動のねらい

“ジャンボおにぎり”として知られる米作りが身近な産業となっている地域性を学ぶと共に長年の基幹産業を大切にする良さや人材・自然の恵みの素晴らしさに触れ、常盤地区のために活動する態度を育てる。

“福祉とは何か”を問い直し、単に参加するだけでなく、意義をとらえ子ども達なりに“出会い”から“ふれあい”に発展し、思いやりの心情を育てる。

活動の対象学年：5学年58人、6学年62人 合計120人

2 年間の活動の展開

体験活動の種類・内容	期間・日数 単位時間数	教育課程上の 位置付け	活動場所	児童生徒の活動の状況
稲作体験 (田植え、稲刈り他)	5～10月 8時間	総合的な学習 の時間	学校田	地域やPTAの方々の協力を得て、育苗の世話から精米までの諸活動を体験し、調べ学習と平行して実施した。
田の生き物 調査	7月 3時間	総合的な学習 の時間	学校田	J Aの全面的な支援で実施。楽しく生き物探しに没頭し、田や堰の生き物に目を向け、環境問題を学習できた。
諸施設見学 (J A、農林研究所)	9～10月 4時間	総合的な学習 の時間	J Aときわ 農林研究所	“お米研究所”として、近隣の農業関連施設への調査活動を行い、新たな発見ができ、発表資料に生かすことができた。
昔ながらの脱穀 (東北農政局)	10月 2時間	総合的な学習 の時間	学校 体育館	手回し精米機や足踏み脱穀機など貴重な用具を使用しての体験は昔の苦勞の一端を理解することができた。
餅米利用 の調理	1月 2時間	総合的な学習 の時間	学校 家庭科室	調理実習に収穫した餅米を利用し、用務員さんの協力を得て、赤飯、おはぎ、いちご大福など美味しくでき、収穫への感謝する活動となった。
点字体験	9月 3時間	総合的な学習 の時間	学校 体育館	視覚障害の方から点字の指導を受けただけでなく、配慮事項やメッセージを聞くことができた。
養護(盲)老人ホーム施設 訪問	9月 4時間	総合的な学習 の時間	津軽 ひかり荘	点字学習を生かしての実践として、目の不自由な方々との触れ合いや施設の工夫や取組を学び、理解を深めた。
高齢者・障害 者疑似体験	10月 2時間	総合的な学習 の時間	学校 体育館	耳栓やサポーター等を装着して歩行、作業等の疑似体験をして高齢者、障害者理解を深めた。
特養老人ホー	11月	総合的な学習	特養	入所者と交流を図りながら、バリアフ

△施設訪問	3時間	の時間	ときわ	リーの重要性を学ぶことができた。
障害者施設 訪問	1月 5時間	総合的な学習 の時間	山郷館 くろいし	重度障害者施設で奉仕体験をしたり、ミニコンサートを披露した。

3 学校支援委員会の体制

- (1) 校内体制は、校長(委員長)、教頭(事務局)教務主任(交流関係)5学年担任(稲作体験)6学年担任(福祉体験)とし、全体事業推進のパイプは事務局が行ったが、計画・実践は各部が外部支援者と連携をとり、遂行した。稲作の外部支援は地域の経験豊富な人材を中核にして、JAときわのバックアップを得た。福祉部は藤崎町社会福祉協議会事務局長が全面的に他団体との交渉や連携の窓口となり、ご苦労をいただいた。
- (2) 稲作体験は、学校田での活動が中心で調べ学習から波及する内容については、近隣の施設や所員の派遣を得て、幅広い学習に取り組んだ。福祉体験は、焦点を絞り障害者やお年寄りの立場を知る体験を経て、各施設への訪問で子どもたちが考えるボランティアの実践体験へと学びが広がった。

4 活動の評価の工夫と指導の改善

- ・ 総合的な学習での体験としたので4つの評価観点のもとに評価をした。
課題を発見し、追求しようとする力 ~ 体験活動を通して自らの意志で決定 ~
問題解決の力と人との関わる力 ~ 情報収集力・情報取捨選択力・学びや考えの習得 ~
考えをまとめ、伝達する力 ~ プレゼン表現力・言葉での伝達と記録としてのまとめ ~
人と関わろうとする力 ~ 発表・交流、発展的活動の模索、自らの生き方の変容 ~
- ・ 自己振り返りカードや感想文、交流者や支援者への手紙、発表等の方法で評価を行い、体験による心情の変容をとらえて米作りや福祉に携わる人たちの苦労や思いを感じ取らせる。

5 活動の成果と課題

【成果】・米作りについては、大まかな知識はあったが、実際に体験をすることで、その大変さを感じ、お米を大切に食べなければならないという気持ちが育ってきた。



又、外部支援者から、「みんなと仲良く作業ができて良かった。」との感想をいただき、地域の方々とのふれあいも大きな成果であった。

- ・福祉体験の位置づけだが、総合的な学習の素地作り及び発展的活動とした。スタートの段階では、教師サイドが意図的にかつ能率的に活動やそれにかかわる調べ活動を展開できるようにした。このことにより、子ども達は自分の課題をより設定しやすくなり、周囲に流されることなく、自らの意志で選択した活動を最後まで継続することができた。発表伝達においては、まとめの発表だけでなく、自ら学んだ体験を第三者に伝えるというワークショップで、更に理解を深めたと実感した。

【課題】・草取りの時期が学校の夏休みと重なり、少し遅くなったので自然に合わせた活動を考慮する必要があった。

- ・福祉体験活動は学校行事活動とのかね合いからスタートを遅らせざるを得なかった。次年度は余裕をもって進めるべきである。早い時期に関係機関と話し合い、計画立案ができるようにする必要がある。

平成18年度豊かな体験活動推進事業（推進地域：藤崎町）

【中学校：推進地域に関わる体験活動】
郷土や郷土の産業を理解させる体験活動
藤崎町立藤崎中学校

1 活動の概要

活動のねらい

様々な人々との交流活動や体験活動を通して、郷土や郷土で働く人々を理解させ、豊かな人間性を育む。

活動の対象学年：1学年・115人

2 年間の活動の展開

体験活動の種類・内容	期間・日数 単位時間数	教育課程上の 位置付け	活動場所	児童生徒の活動状況
勤労生産体験 りんご摘果体験	6月 5時間	総合的な学習 の時間	藤崎園芸 高校農場	りんごの実の摘果作業の話 を聞き、その後、りんご摘 果作業を行い、協力して作 業に取り組めた。
弘前市内自主 見学	7月 7時間	総合的な学習 の時間	弘前市内	施設関係者の方々より積極 的な協力を得て、自分たち の地域とは違う文化に気づ いたり、見聞を広めた。
弘前市内自主 見学発表会	7月 4時間	総合的な学習 の時間	学校	相手に何を伝えたいかを工 夫して発表会をおこない、 講師や保護者から評価をい ただいた。
藤崎町内清掃 奉仕活動	8月 3時間	特別活動	町内	地域の公共施設清掃を通し て、公共物を大切に使う という態度が育成されてき ている。
白神山地体験 学習	10月 7時間	特別活動	西目屋村	世界遺産を体験し、ガイド さんと交流を図ることがで きた。
勤労生産体験 りんご収穫体験	11月 6時間	総合的な学習の 時間	藤崎園芸 高校農場	収穫前のりんごの話聞き その後、収穫体験を行い、 りんごに対する理解を深め た。 活動について自己評価感想 用紙に記入。
りんごを使っ た加工品づく り	11月 3時間	総合的な学習の 時間	学校	外国人講師を招き、りんご を使ったアメリカの家庭料 理を紹介後、自分達が収穫 したりんごで料理教室を行 った。

3 学校支援委員会の体制

- ・担当教員が学校支援委員会の協力を得て、体験内容に応じて関係機関（PTA・町教育委員会・藤崎園芸高校等）と連絡をとり合い、実施してきた。
- ・体験活動は1学年(担当者2名)で行った。
「弘前市内自主見学」では弘前市観光館と連携して実施。
「地域クリーン作戦」は教育委員会やPTA、町内諸施設と連携して実施。
「白神山地体験」は、西目屋村ビジターセンターと連携して実施。協力を得てガイドさんを確保した。
「りんご勤労生産体験学習」は藤崎園芸高校と連携して実施した。



りんご摘果作業

4 活動の評価の工夫と指導の改善

- ・生徒一人一人がファイルを持ち、体験についての資料・感想・自己評価などすべてファイルに保存し、体験を振りかえらせた。
- ・「事前指導 体験活動 活動の自己評価・感想記入 次の活動」の流れで指導と評価を行った。
- ・保護者を迎えてグループや学級ごとの発表会、文化祭での掲示発表を行い、活動のまとめとして評価の場とした。



世界遺産を体験

5 活動の成果と課題

(1) 成果

- ・藤崎園芸高校さんのご協力による勤労生産体験や弘前市内自主見学体験では地域の理解につながり、施設関係者の方々より積極的な協力を得ることができた。
- ・りんご体験実習では、摘果・収穫を体験させ、自分達が収穫したりんごを外国人講師を招いて、りんごを使ったアメリカの家庭料理を紹介し、料理教室を行った。日本とは違った料理法に生徒は興味を持った。
- ・地域クリーン作戦ではPTAや関係機関との連携体制ができた。
- ・白神山地体験ではガイドさんとの交流を図ることができた。



りんご収穫作業

(2) 課題

- ・身近な地域のよさや勤労体験の大切さなど、様々な体験を通して再認識した一年であったが、次年度は評価の方法や内容を吟味し、生徒の変容を把握するよりよい評価のあり方を検討していきたい。
- ・学校支援委員会との連携を深めるために定期的に委員会を開催し、意見を伺いながらより主体的な生徒の活動を目指していきたい。
- ・今年度りんご収穫時期と重なり実施できなかった体験活動があったので、体験活動の年間計画を見直し、正しく位置づけたい。



料理教室

平成18年度豊かな体験活動推進事業（推進地域：藤崎町）

【中学校：勤労・福祉に関わる体験活動】

勤労観・職業観を育てる体験活動

藤崎町立明德中学校

1 活動の概要

(1) 活動のねらい

地域におけるボランティア活動や福祉活動において、住民との交流を図り、人間尊重や奉仕の心を育てる。

就業体験を通して、自己の生き方についての考えを深めさせ、望ましい勤労観・職業観を育てる。

(2) 活動の対象学年：2学年・69人

2 年間の活動の展開

体験活動の種類・内容	期間・日数 単位時間数	教育課程上の 位置づけ	活動場所	児童生徒の活動の状況
職業人取材活動	夏季休業中 1日間 (5時間)	教育課程外	明德中学校卒業生が働く事業所	自信と誇りを持って仕事をしている人々を取材することによって、「働く」ことに対して意識を高めることができた。
福祉体験活動	9月 2日間 (12時間)	総合的な学習の時間	町内福祉施設	施設の見学や職員の説明を聞いたり、実際に介護の補助を行うことにより、福祉や介護に対する認識を深めることができた。
職場体験活動	10月 3日間 (16時間)	総合的な学習の時間	町内事業所・農家	いろいろな事業所の中から希望する職種を選び、3日間の就業体験を行った。
職場体験活動発表会	10月 1日間 (4時間)	総合的な学習の時間	藤崎町立明德中学校	職場体験活動の事前準備や体験した内容・感想等をまとめ、工夫して発表した。
職業講話	10月 1日間 (3時間)	総合的な学習の時間	藤崎町立明德中学校	働くことの意義を再認識し、思いやりの心や望ましい勤労観を育むことができた。

3 学校支援委員会の体制

(1) 構成

藤崎町立明德中学校（校長、教頭、教務主任、2 学年主任、体験活動担当）、藤崎町立明德中学校 P T A 会長、藤崎町社会福祉協議会会長、藤崎町商工会会長

(2) 内容

年度初めに学校支援委員会を開催し、趣旨説明等を行い、共通理解を図った。関係機関との連絡を取り合い、調整を図りながら実施することができた。

4 活動の評価の工夫と指導の改善

今年度は主として、教師の観察や、体験後の生徒の感想文や自己評価をもとにして評価を行った。次年度は「総合的な学習の時間」の評価基準をもとにした評価や、職場体験活動でお世話になった事業所からの評価も取り入れ、活動ごとに生徒に提示し、次の活動の意欲付けになるよう改善したい。

5 活動の成果と課題

(1) 成果

- ・あいさつや返事、時間の厳守などは、すべての事業所に共通した注意事項として挙げられていた。生徒たちは、よりよい人間関係を築くために必要なことや社会生活の基本を毎日学校で学んでいるという点に気づいた。
- ・将来の職業選択に向けて意欲的になった。希望している職業に就きたいという意志が強くなった生徒や、希望していた職業には向いていないと、他の職業を考えるきっかけとなった。
- ・進路や将来の職業について、家庭で話す機会が増えた。
- ・働くことの大変さや厳しさを体験することができた。また、仕事をやり遂げたときのすがすがしい充実感を味わうことができた。

(2) 課題

- ・職場体験活動は昨年度まで 2 日間で実施していたが、今年度は 3 日間で実施した。大部分の事業所は協力的であったが、1 日や 2 日でよいという事業所が数件あった。
- ・様々な体験活動やその事前・事後指導と進路学習とを有機的に結びつけた計画を年度当初に作成しておけば、生徒たちにとってより大きな成果が期待できるのではないか。



平成18年度豊かな体験活動推進事業（推進地域：藤崎町）

【高等学校：ボランティアや勤労体験・文化・交流に関わる体験活動】

地域に飛び出し地域から学ぶ体験活動を考える

青森県立藤崎園芸高等学校

1 活動の概要

活動のねらい

勤労体験を伴うボランティア活動、また歴史や文化に親しむ活動を通して、郷土について学び郷土を愛する心を育てる。

地域の教育資源を活用しながら体験活動を進め、地域との交流を通して豊かな人間性を育む。

活動の対象学年

りんご科・農業経済科：1・2・3年・150人

2 年間の活動の展開

体験活動の種類・内容		期間・日数 単位時間数	教育課程上の位置付け	活動場所 ()は学年	生徒の活動の状況	
ボ ラ ン テ ィ ア 活 動	花 い っ ぱ い 運 動	通学路花植え プランター	5月・4時間 5月・2時間	農業科学基礎 総合実習	通学路(1年) プランター (1・2・3年)	通学路への花植え及び全校生徒による一人2プランターの花植え・設置。
		保育・幼稚園 小・中学校	5月・4時間 5月・4時間	課題研究 課題研究	保幼(2年) 各校(3年)	町内4箇所に園児や児童との花植え交流。
		町内花壇 公共施設 社会福祉施設	5月・4時間 5月・6時間 5月・6時間	課題研究 課題研究 課題研究	藤崎町(3年) 藤崎町(3年) 藤崎町他(3年)	藤崎町内及び弘前市内延べ33箇所の花壇整備やプランター設置。
	ボランティア教室	2月・2時間	総合活動	本校(1・2年)	外部講師による講座(手話・点字・車椅子操作等)	
就 業 体 験	インターンシップ	8月・18時間 (3日間)	総合活動	各職場(2年)	夏季休業を利用したのインターンシップ。	
	りんご剪定教室	3月・4時間	りんご (学校設定)	本校りんご園 (2年)	外部講師によるりんごの剪定技術の講習。	
文 化	ふるさと探索ウォークラリー	7月・6時間	総合活動	藤崎町内 (1・2・3年)	町内の旧所・名跡をラリー形式で訪ね、ふるさとの良さを発見する。	
地 域 交 流	アップルフェスティバル	10月・6時間	総合実習	本校農場 (1・2・3年)	りんごに感謝し豊作を祈願する活動。(町内園児との交流会も兼ねる)	

3 学校支援委員会の体制

委員会の構成と運営内容

校内推進委員会：校長、教頭、教務主任、進路指導主事、3 学年主任、2 学年主任、農場長、事務局（教諭 2 名）

内容：校内組織づくり、活動の企画・運営、実践後の課題等の検討

学校支援委員会：上記の校内推進委員会 + 町内小中学校の担当教諭 1 名ずつ

内容：活動進める上での連携及び連絡調整

本校の特色ある取り組み

これまで行われていた活動を見直し、今後も継続・改善していけるように、農場部が主担当になり農業教育と関連付けながら取り組んだ。

教えることにより自らが学ぶという考えに基づき、園児・児童はもとより地域住民や施設入居者等との異世代間の交流により、自らが成長できるような取り組みとした。

4 活動の評価の工夫と指導の改善

評価の工夫

各行事毎にアンケートなどを実施し、各種活動を体験することによる自らの内面的変化（心の変化）を感じ取れるようにした。

教科・科目の評価基準に照らし合わせながら、生徒の変容（生徒職員ともに）に気づくことが出来るようにした。

指導改善の工夫

学年毎の発達段階を考慮しながら、3 年間を通しての体系付けられた継続的な体験活動になるよう、学年毎に内容を変えた。

学年合宿（1 学年）等の実施により、連帯感の育成や愛校の精神を学び取れるようにした。

5 活動の成果と課題

成果

ボランティア活動・園児や児童との花植え交流等により、命を大切にすることと自ら学ぶ必要性を知るきっかけになった。またボランティア教室を体験することにより人に優しく接することの必要性を感じ取れるきっかけになった。

就業体験により、勤労観・職業観を感じ取るとともに対人関係の難しさを知った。

文化活動により、ふるさとの歴史や文化を知るとともに、ふるさとを見つめなおし将来ふるさとに生きていくための逞しさを身につけるきっかけになった。

地域との交流活動により、連帯感や協力性の必要を学ぶとともに、世代を超えた交流により自分自身を見つめ直すきっかけになった。

今後の課題

体験活動をとおして生徒の変容を全職員が共有すると共に、生徒自身が活動の主体者になれるように検討していく必要がある。

平成 20 年度の校舎制により学校規模は小さくなるが、継続性のある活動となるような工夫が必要である。